

台付2ハンドルシャワー・混合栓 取扱説明書 (安全編)



- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
- この取扱説明書と施工説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
- この取扱説明書はシャワー仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です
 この絵表示は、「分解禁止」の内容です
 この絵表示は、「接触禁止」の内容です
 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

やけど、漏水をした場合の処置 やけどをした場合は、すぐ、その箇所に水を流しながら冷やしてください。そして専門の医師の診察を受けてください。漏水した場合は元栓、または止水栓を開めてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。そして専門の業者に修理を依頼してください。

<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>85℃以上はダメ</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>小さいお子様だけの使用は避けてください。</p> <p>やけど・けがをするおそれがあります。</p>
<p>シャワー仕様の場合 シャワー使用中に2か所同時使用をしないでください。</p> <p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>器具の左側は給湯側のため高温になっています。器具(金属)の表面に直接肌を触れないでください。</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p>
<p>高温の湯をお使いのときは吐水口は高温になっています。直接肌を触れないでください。</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p>	<p>湯水をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。</p> <p>確かめないと高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。また吐水口とシャワーの切替時や、シャワー吐水状態の切替時に、吐水温度が高くなることがありますのでご注意ください。</p>	<p>シャワー仕様の場合 お使いになる前に、吐水口側かシャワー側かを吐水切換ハンドルで確認してから湯をお使いください。</p> <p>吐水口とシャワーを間違えると、やけどをするおそれがあります。</p>

<p>湯水を出すときは、必ず水側のハンドルから開いた後、徐々に湯側のハンドルを開いて湯温を調節してください。</p> <p>湯側2番 水側1番</p> <p>湯側のハンドルから開くと、高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p>	<p>シャワー仕様の場合 シャワー使用後は、吐水切換ハンドルを必ず吐水口側に切換えてください。</p> <p>吐水切換ハンドルがシャワー側になっているのを気付かず湯を出すと、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>湯水を止めるときは、必ず湯側のハンドルから閉めてください。</p> <p>次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p>
<p>警告</p> <p>高温の湯をお使いの後は、器具内に高温の湯が残らないように、しばらく水を流してから止水してください。</p> <p>水を流さないで次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p>	<p>シャワー仕様の場合 シャワーには60℃以上のお湯を通水させないでください。</p> <p>60℃以上はダメ</p> <p>通水させると器具が破損し、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p>器具に乗ったり、よりかかったりして無理な力を加えないでください。吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回さないでください。</p> <p>器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>配管などの解凍のため解凍機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>めっき仕様の場合 めっき部分は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>ハンドル操作の急閉止は、配管からの漏水を起こすことがありますので、ゆっくり操作してください。</p> <p>ゆっくり操作しないと漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> <p>凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

修理のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

水栓の品番をご確認ください
 水栓に貼ってある品番シールをご確認ください。シールの左下が品番です。

修理料金は技術料+部品代+出張料で構成されています

技術料…診断・故障箇所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検等の作業にかかる費用
部品代…修理に使用した部品代
出張料…製品のある場所へ技術者を派遣する際の費用

KVK修理受付センター TEL 0120-474-161
 上記フリーダイヤルは携帯電話からはご利用になれません。携帯電話からは058-234-8946をご利用ください。
 受付時間/平日 9:00~18:30 土・日・祝日 9:00~17:00

株式会社 KVK
 本社・工場/〒501-1195 岐阜市黒野308/TEL058-239-3111 代表
 インターネットホームページ <http://www.kvk.co.jp/>

日常のお手入れ・保守

お手入れ方法

【軽い汚れの場合】
 汚れは柔らかい布やスポンジで水洗いしてから、乾いた布で拭き取ります。

【ひどい汚れの場合】
 中性洗剤をぬるま湯でうすめて、柔らかい布で汚れを拭き取ってから、乾いた布で拭き取ります。

【使ってはいけないもの】
 水栓には樹脂部品が多く使用されているため、シンナー・アセトン・ベンジン・カビトリ剤・酸性・アルカリ性系・塩素系洗剤等は使わないでください。金たわし・みがき粉等は外観にキズが入るおそれがありますので、使わないでください。

【お願い】メラミンフォームを使用する場合は、文字やマーク等印刷部分をこすらないようにしてください。

定期的な点検

安全・快適にご使用いただくために、定期的な点検をおこなってください。

【湯、水ハンドルの操作性】
 時々湯、水ハンドルをいっばいに回してください。湯、水ハンドルを長期間回さず使用すると機能部に水あかなどが付着し、吐水機能が損なわれるおそれがあります。

シャワー仕様の場合 【吐水切換ハンドルの操作性】
 時々吐水切換ハンドルをいっばいに回してください。吐水切換ハンドルを長期間回さず使用すると機能部に水あかなどが付着し、吐水切換機能が損なわれるおそれがあります。

配管まわりからの水漏れ (1ヶ月に1回程度)
 【注意】配管まわりから水漏れがないか確認してください。部品の劣化・磨耗などにより継続的な漏水につながりますので、配管まわりの点検を行ってください。

定期的な部品交換 (部品は水栓の種類によって異なります)

使用年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
お客様による日常のお手入れ・点検	〇											
消耗部品の交換 (こまバッキン等)	〇											
磨耗劣化部品の交換	〇											

買い替え
ご検討

部品の交換 部品が磨耗・劣化すると水漏れ等の原因になりますので、交換が必要です。
 ・磨耗・劣化部品の例 (水栓の種類によって異なります)
 例) カートリッジ、シャワーヘッド、シャワーホース、逆止弁等

【注意】中でもより安全のため、逆止弁は早めの点検・交換を行ってください。逆止弁が正常に機能しないと、状況によっては一度吐水した水が逆流するおそれがあります。
 (逆止弁は仕様により付いていないものがあります)
 部品交換のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

補修用部品の供給期間 この製品の補修用部品 (機能維持に不可欠な部品) の供給期間は製造中止後10年です。

台付2ハンドルシャワー・混合栓 施工説明書 (安全編)



■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
■この施工説明書はシャワー仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結びつく可能性があります。
 - ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、しては
いけない「禁止」の内容です

この絵表示は、必ず実行して
いただく「強制」の内容です

<p>湯水を逆に配管しないでください。 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>スチームルーム及び乾燥室にご使用の際は相談ください。</p> <p>警告</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合も湯側圧力を水側より低くしてください。</p> <p>警告</p> <p>給湯圧力を給水圧力より高くすると、正常な温度調節ができなくなり、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>
<p>寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</p> <p>やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p>

器具に強い力や衝撃を与えないでください。



禁止
器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。



取り付け前に

- ① 使用水圧 [A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)]
 - (1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42℃ ハンドル全開)

【比例制御式】 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯機との組み合わせ

【給湯・給水圧力】 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給湯機の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ④ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑤ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑥ 本製品は改造(加工及び接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑦ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。